

令和 3 年 10 月 4 日

ワークショップについて

氏名 出頭 久美子

- 1 日 時 令和 3 年 9 月 28 日 (火) 14:00 ~ 17:00
2 会 場 黒崎市民会館
3 参加者属性 (該当する所属を○で囲む)

公民館運営審議会委員 ・ 図書館協議会委員 ・ ユースアドバイザー ・ 社会福祉協議会職員

4 意見交換を行った活動事例

- ・角野社会教育委員の高校生の学びを豊かにする仕組み作り
- ・山田社会教育委員の音声訳ひばり会の活動
- ・学校教育と地域がどう連携し、子どもたちの経験をどう繋げるか。

5 社会教育委員として、ワークショップを運営して感じたこと

グループのメンバーの立場(所属)が違っていたので、それぞれの活動についての説明や質問にさかれた時間が多かったように思う。本題になかなか入れなかったように思う。参加者名簿が事前にいただけているとよかったのかもしれない。ファシリテーターとタイマーが事前に説明を受けたり、打ち合わせをしたりする時間があるとよかった。

時間的に短かったが、所属の違う参加者とファシリテーションできたことは、直接考えをお聞きできて、とても興味深かったし、貴重な時間であった。

6 次世代育成につなげるための課題

小中学生の親世代が地域や社会に積極的に関わっていない(関わる時間が無い)。そのことにより、繋がりが薄くなっている(無い場合もある)。地域とともにある学校を目指し、CSの準備も進めてはいるが、まずは、地域住民や保護者と学校が、共にその必要性や可能性を共有しなくては、歩みが進まないのではないか。それぞれの生活(仕事)と次世代育成の課題解決を両立させながらの取組は、行政や学校と地域等のリーダーシップが必要である。

7 課題の解決策、ヒント

・「社会教育による次世代育成」というテーマで、今回のように関係各位が話し合う場の重要性を感じている。様々な立場(所属)の方と何度も話し合いを行うことが大切だと考える。

・新潟市公立小中学校において、来年度全面実施となるCS。準備段階の今年度、スタートの来年度は課題解決の貴重な機会である。中学校区の小中学校長が課題を共有し、地域や保護者に発信し、共に課題解決に向けて進めるよう、意識して動くことが重要。